

大腸穿孔による腹膜炎で加療された患者さまへ

金沢医科大学（病院） 一般・消化器外科
（氏名）小坂健夫、上田順彦、三浦聖子

私たちは「大腸穿孔による敗血症の病態と治療効果に関する研究」という臨床研究を実施しています。研究概要は以下のとおりです。

研究課題名 大腸穿孔による敗血症の病態と治療効果に関する研究

研究の意義・目的

敗血症は現在『感染症に対する制御不能な宿主反応に起因した生命を脅かす臓器障害』と定義されています。医療が進歩した現代でも敗血症の頻度は高く、患者数は増加しています。敗血症の死亡率は約30%、敗血症性ショックでは50%でありICUでの死亡の主因となっています。大腸穿孔による腹膜炎の患者さんは多臓器不全に陥る可能性が高いため迅速かつ適切な治療が求められます。本研究は、手術を含む救急治療を要する大腸穿孔による腹膜炎の患者さんを対象に、敗血症の病態を研究します。そして治療内容、検査データ等を解析し、敗血症の病態の解明と生存率の向上を目指した治療法の確立を目的としています。

患者様にはこれら日常診療の中で得られた様々な検査結果、画像所見、細菌培養結果などをこれらの研究の資料として活用させていただくことをご了承いただきたいと存じます。

研究の対象者・研究期間

対象者：2000年1月～倫理審査委員会承認後(2017年9月)までに当院で膵臓癌の治療を受けられた患者さま。年齢層は15歳～100歳。

研究期間：倫理審査委員会承認後～2015年12月31日

研究の方法・研究に用いる試料・情報の種類

この臨床研究では、患者さんの主な情報、資料、病歴、基礎疾患の治療歴、副作用等の発生状況、血液、手術で摘出した組織、画像検査所見、内視鏡検査所見 等を用いて、敗血症の病態や重症度を判定し適切な薬剤や血液浄化療法、呼吸管理などを行い治療します。また必要に応じて、リハビリや栄養補助食品、高カロリー輸液など、現時点で私たちは提供できる最善の治療を行い治療します。

臨床試験に参加を同意された患者さまに関しては、上記の治療で得られた血液、画像、病理など臨床のデータを集積して分析します。

研究に用いる患者さまの資料としては

- ・病歴、既往歴、治療効果、カルテ番号 等
- ・血液、手術で摘出した組織、細菌培養結果 等
- ・画像検査所見、内視鏡検査所見 等

この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。
なお、研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

研究機関 金沢医科大学

研究に関するお問い合わせについて

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

お問い合わせ先

金沢医科大学（病院） 一般・消化器外科 上田 順彦、三浦聖子

住所：〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1

電話：076-286-2211（内線 3127）

研究責任者

金沢医科大学(病院) 一般・消化器外科 上田 順彦

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 上記

2017年10月1日作成